

Ⅲ 教育委員会点検・評価書

1 教育委員の活動

(1) 概要

浦添市教育委員会は5人の委員で組織されています。委員は、毎月1回の定例会と必要に応じ、臨時会へ出席し、付議された案件について、審議等を行っています。また、学校や地域行事等への積極的参加や、教育委員会連合会を通して、他市町村教育委員会の情報収集教育行政に関する諸問題を研究討議し、浦添市の教育行政の発展のために努めています。

(2) 教育委員名簿

平成28年3月31日現在

役職名	氏 名	任 期
委員長	多 喜 和 彦	平成24年10月1日～平成28年9月30日
職務 代理者	与 儀 啓 子	平成25年4月20日～平成29年4月19日
委員	胡 宮 な り え	平成26年10月1日～平成30年9月30日
委員	池 田 博 暁	平成27年4月1日～平成31年3月31日
教育長	池 原 寛 安	平成25年5月31日～平成29年5月30日

(3) 教育委員の活動状況

	内 容	件 数
1	教育委員会の会議(定例会・臨時会)	2 1
2	教育委員の資質向上(研修会等)	1 4
3	学校訪問	2 2
4	各学校行事(儀式・体育行事等)	1 2
5	各種行事(大会等)	1 1 6

(4) 教育委員会の会議

- ① 毎月1回の定例会と9回の臨時会が開催され、60の議案（2議案は取り下げと1件は一部取り下げ）について審議した。
- ② 一部人事案件については秘密会として議事の進行が行われた。
- ③ 会議毎に概ね前会議又は前々会議の会議録の承認が行われた。インターネットなどによる会議録の公開に向けての対応が進みつつある。
- ④ 会議に向けての「事前勉強会」も概ね適時開催された。事前勉強会は今後、事前勉強・情報交換会として定期的な開催が望ましい。
- ⑤ 会議の資料については、可能な限り少なくとも3日前までに各委員に届けてもらいたい。

(5) 教育委員の相互連携と資質向上

- ① 平成27年度第1回那覇地区市町村教育委員会協議会（総会）
期日：平成27年5月14日（木）
場所：沖縄市中央公民館
議題：平成26年度事業報告・収入支出決算・監査報告
平成27年度事業計画（案）・収入支出予算（案）・役員選出
情報交換
- ② 平成27年度第2回那覇地区市町村教育委員会協議会
日時：平成28年2月8日（月）午前11時30分～
会場：ホテルロコア那覇アレッタ
議事：・沖縄県市町村教育委員会連合会第3回理事会の報告
・平成28年度沖縄県市町村教育委員会連合会総会および研修会（司会の選出について）
・那覇地区理事の選出について
成果
ア 5市町村（那覇市・浦添市・久米島町・南大東村・北大東村）ともに、レイマンコントロールにかなった委員の活躍が伺えた。
イ 学力向上対策に地域・家庭・学校の協働で、それぞれの地域の実態に応じた取り組みが伺えた。
感想
ア 各市町村教育委員会が工夫と努力をしている姿に感銘を受けた。
イ 市町村教育委員会の交流・親睦を図るよい機会である。今後は互

いの現状報告はもちろん、共通するテーマを設定し研修を深める必要を強く感じた。

③ 第60回沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会

期日：平成27年5月14日（木）～15日（金）

場所：沖縄市民会館 大ホール他

議事：平成26年度事業報告・歳入歳出決算・監査報告

平成27年度役員（案）・事業計画（案）・歳入歳出予算（案）

平成28年度文教施策とその予算措置に関する要請（案）

・会則変更（案）

講演：講師 清川 輝基（NPO法人子どもとメディア 代表理事）

演題「メディア漬け」で壊れる子供たち～スマホ社会の落とし穴

分科会 第1分科会テーマ「教育委員会制度改革について」

第2分科会テーマ「全国学力学習状況調査について」

第3分科会テーマ「インターネット利用環境について」

成果

- ア 講演では「感情と信頼はアイコンタクトからスタートするが、スマホを見ながら授乳させ、8割の親がアイコンタクトを拒否」「スマホをやめるか大学生をやめるかー信州大学学長入学式辞から」「平面画面ばかり見ていると眼球が動かなくなり、立体視力が育たず、その結果ボールが顔に当たる子が急増」「スマホは子どもの劣化を進める」「カナダはメディアリテラシーの先進国」等々心に残る言葉を多数学ぶことができた。
- イ 第2分科会の報告では、学力先進地域へ視察研修のため各学校から1名の教師を派遣したり、授業体験させ、「学び」を経験させるために児童生徒を派遣する市町村がある。
- ウ 一括交付金で退職教員による無料塾を開いたり、学習支援員を派遣したり、電子黒板を導入したり等の報告があった。
- エ 小中一貫教育で、数学や国語、英語の専門の中学の先生方が小学生を指導し成果が上がったという報告もあった。

感想

- ア 清川氏は東京大学教育学部を卒業しNHKへ入局、子どもを視点に置いた番組を多数手がけられ、そのような経歴をお持ちの方が、

現在もなお子どもを視点に活動を続けておられ、学ぶところが多く迫力ある講演であった。

- イ 学力向上は、学校では「わかる授業の構築」、家庭では、早寝早起き、朝ご飯、読書、家庭学習など「基本的生活習慣の確立」「携帯を親に預ける運動」「子どもを居酒屋に連れて行かない運動」、地域では「愛の声掛け運動」等、連携強化し、いかに浸透させるか具体的に取り組む必要がある。

④ 第11回九州地区市町村教育委員研修大会（台風のため中止）

期日：平成27年7月9日（木）～10日（金）

場所：那覇市民会館 大ホール

意見

- ア 本研修が他府県で開催される場合、浦添市は参加のための予算化がされていない。今年度の沖縄大会は全員参加可能と期待したのだが、台風襲来は残念であった。
- イ 本研修会へは、他市町村のように計画的に毎回1～2人の参加を予算化することが望ましい。委員になりたての方と3年目で、あと1年活躍できる方が派遣されると、素晴らしい成果が期待される。

⑤ 平成27年度市町村教育委員会教育委員・教育長研修会

期日：平成28年2月8日（月）

場所：沖縄県庁 4階講堂

内容

県教育委員長照屋尚子氏による挨拶並びに諸見里教育長による学力問題についての講話、担当指導主事より学力向上の方策について校長会や指導主事研修会で行われた学力向上対策についての報告があった。

成果

- ア 学力向上について具体的に示され児童生徒に即した取り組みができる。
- イ 教育委員による積極的な学校訪問を促進し、日頃の取り組みを激励するようにと諸見里教育長の提言は、学校に負担をおかけしないかと遠慮がちに計画訪問だけを実施してきた立場上考えさせるものが大であった。
- ウ スポーツ文化面は全く引けをとらない。示された方策をやれば、

きつと示された提案は実現できると強く感じた。

感想

- ア 市町村教育委員による学校訪問の回数を増やし足しげく積極的に訪問することが望ましい。
- イ 小学校が全国20位へと躍進し、中学も差が縮まってきた。
- ウ 方策として、無回答・回答率30%未満の児童生徒のケアのための補修の在り方を具体的に示された。

(6) 学校訪問

ねらい

教育委員の役割を自覚し、『経営的、実践的、支援的』な視点で各学校の学校・教育づくり等に関する実情を視察し、現状や課題、成果等を把握すると共に、改善・支援策等を模索し政策等に反映する。

具体的な視点

- ① 今回の学校訪問のテーマである「学力向上対策」について、各学校の全国学力テストや学習状況調査の結果（H27）等から見える学力の現状や課題・対策等を把握する。
- ② 学校（学力）づくりの中核である「教師づくり」「授業づくり」「職場づくり」「教師と保護者の協働づくり」等を踏まえ、具体的に授業参観や実践報告、学習環境等を把握し、学校経営、学力向上の具体策、授業実践、教師の意識、児童生徒の学習意欲、生徒指導等の成果と課題、改善点を理解する。
- ③ その他要望等を知る。

特色ある取り組みを中心に総括

評価点

- ① 従来型の学力向上対策の限界を打開するため、学校独自の新しい指導理念や指導体制・組織、ビジョンの構築に努めている。
校訓や教育目標を実践レベルまで具体化し確かな学力向上に努めている。

〔具体的な事例〕

- ア 各学校とも学校経営の中核に確かな学力の向上を挙げ、その具現化のために教育目標の重点化に努め、重点事項、指導の努力点、達成する方策等を練り、校内研究や授業実践レベルで具体化しようと努めている。

- イ 公約として達成目標を具体的に「数値目標」で示し、全国水準の学力を実現しようとする意気込みが伝わってくる。
- ウ 那覇教育事務所が重点化に努める授業改善のための「授業づくりのスタンダード」が各学校で取り組まれている。
自校の特色を活かした「授業づくりのスタンダード」として実践している学校もあり、授業づくりに更に磨きがかかるものと期待している。
- エ 「家庭学習ノート」や「授業と関連づけた家庭学習」を確かに実践するため「家庭学習確認」の時間を日課表に位置づけ実践化している。

② 学校独自の授業改善を通して確かな学力向上に努めている。

〔具体的な事例〕

- ア 「勉強法のでびき『スタディー・ナビ』」の作成と活用が丁寧に指導されている。
- イ 各学校の理念や実態に応じた「〇〇中型問題解決の授業」や「〇〇中授業スタイル」等のように授業の型を工夫し、教師間で具体的に共有化を図り、確かな学力を定着させる授業づくりに努めている。
- ウ 児童の実態を踏まえた「1年生～6年生まで各学年のめあて」と「今年度の重点的な取り組み」をきめ細かく具体的に示し「わかる授業」の構築による「確かな学力」の向上に努めている。
- エ 各学年の授業研の課題をリレーし確実に解決する実践に努める。
1年生の授業研の課題を2年生につなげて解決し、2年生の授業研の課題を3年生につなぎ解決する。等、未定着の学習負債を短いスパンで確実に解決する取り組みが工夫されている。
- オ 板書と連動したノート指導の工夫・・・日々、児童生徒の思考を促す板書に努め、ノートの使い方や考え方を丁寧に書くこととつなげ、児童生徒が主体的に自分の考えを整理してまとめることで確かな学力を定着させる実践に努めている。
- カ 日頃の授業をOJTの視点で実践化しようとする校長や教職員の意識の変容を感じる。

③ 「問題行動や課題のある児童生徒を排除しない！」との理念を共有・実践している。

〔具体的な事例〕

- ア 「どの生徒も絶対に排除しない。」との理念を教職員一人ひとりが共有し、学び合う関係づくりのある授業づくり等で学校・学級づくりに努めている。「どんな児童・生徒も引き受けるのが公教育の役割『本人のせいや親のせい、地域のせい』にはいけない。学校・学級を全ての児童・生徒が安心して学ぶ居場所にしていきたい。』と、遊び型非行や不登校、万引きや問題行動、授業についていけない低い学力等々、多くの要因で困難を抱える児童生徒と積極的に向き合う教職員の強い意識をヒシヒシと感じた。
- イ 「〇〇小さきらきらプラン」「〇〇小リーフレット」、校内研究や授業づくりの中で、学習規律の確かな実践を位置づけ、児童・生徒や教師、保護者が一丸となって日常的に取り組み、学び方の基礎を整え、基礎的・基本的事項の定着に努めている。
- ウ 市特別支援教育コーディネーターや心理相談員、特別支援教育ヘルパー、特別支援教育巡回相談員等の派遣があり、学級担任等と連携を取り児童生徒への支援に努めている。支援の答えを見つけることは難しいが、「児童生徒と丁寧に関わることで、どんな支援が必要か見えてくる。」との声は心強かった。安心できる教師がいて、「多少抵抗があってもやってみようかなと思う」支援を工夫している。

- ④ PTA や地域等との連携を工夫し家庭学習や補習指導の充実に努めている。

〔具体的な事例〕

- ア PTA の広報誌を「見やすく・楽しく・分かりやすく」等の紙面作りを工夫し、参加から活動する PTA をめざし啓発している。学力向上班等を設け→家庭学習の習慣化→「家庭学習キャンペーン」の実施等、PTA と学校が同一步調・方向で協働している。
- イ 「画期的なことだが、毎日保護者が 1 ～ 2 時間授業に入り学習支援を行っている」実践がある。授業参観日に「〇〇っ子！先生方！がんばれシート！」を配布し、参加者全員に学校の様子や授業の様子、学級の様子、児童の様子等々の視点を示し、感想や意見をもとめる等して授業づくり、学級づくり、学校づくりに努め、同時に「保護者の学校・学習支援」を意識付け啓発する学校長の経営戦略が工夫されている。

- ウ 学生ボランティアや学習支援員等を活用した「放課後〇〇クラブ」「〇〇教室」「宿題〇〇会」「〇〇タイム」等と工夫し、児童生徒の学習支援が意図的・計画的に取り組まれ、基礎学力の底上げを図っている。同時に、学ぶことの習慣化や家庭学習の習慣化へとつなげている。
- エ 地域のボランティアや保護者等が指導する放課後宿題センターを創意工夫したことで、上級生と下級生が互いに学び合う異学年交流も生まれ、共に学び合い楽しく意欲的に参加・学習する居場所づくりになっている。

⑤ 授業と連動した掲示教育を整備し学習効果を高めている。

〔具体的な事例〕

- ア 授業で学んだノートやワークシート等を掲示して、友達の考えや問題解決の方法等を紹介したり、確認したり、繰り返し指導等、継続的で躍動感を持って取り組んでいる。

⑥ 楽しい職場づくりの構築に努めている。

〔具体的な事例〕

- ア 教職員の多忙化等が問題となり精神的なストレスから病休を余儀なくされる教職員が増加する中、「楽しく勤めたい学校」の姿を学校経営理念として掲げ、具体的に実践する取り組みが見られるのは高く評価したいことである。
- イ 勤めたい職場改善をめざして
 - ◎同僚生を高めて「心のゆとり」・声かけ愛 支え愛。
 - ◎みんないっしょに「Enjoy Day」・語って笑って 元気ハツラツ。
 - ◎NO 残業で「家族サービス」・日頃の支えに感謝しよう。

配慮事項

- ① 全ての学校・教師が、日常的・具体的な授業改善を通して学力を高めようとする意識は強く感じる。あと一歩、学校長を中心に「勤めたい学校がある」「楽しく分かる授業ができる」「学び合える仲間がいる」「理解してくれる保護者がいる」学校づくりに挑戦して欲しい。
学力向上の一番の近道は、児童・生徒、保護者・地域、教師の信頼を味方に付けることと考える。

- ② 学校独自の授業改善の意気込みは感じるが従来型の授業の域を抜け出せていない授業がある。できる子と教師のやりとりだけで進む授業では、必ず取り残される児童生徒が出てくる。授業に参加しない子を無くし、仲間をつなぎ学び合い支え合う授業ができる指導力の向上は喫緊の課題である。
- ③ 「生徒指導が落ち着いてきたのでこれから学習指導に力を入れたい。」との説明は理解できるが、「楽しい授業・わかる授業」こそが積極的生徒指導の根幹であると考ええる。授業中居眠りしている子や教室を抜け出し（校舎内を散歩）授業に参加しない子の改善は急務である。
- ④ 「教室配置や児童・生徒数は適正か」「発達状況についての確認・共有の体制は確立されているか」「担当教諭の指導に対する指導・助言は適時・適切に行われているか」「特別支援教育コーディネーターや心理相談員、特別支援教育ヘルパー、特別支援教育巡回相談員等の確保や支援は十分か」等、特別支援教育の充実が図られているか、丁寧な検証が必要と思われる。
- ⑤ 学校づくりや授業づくり、教師の指導力や学力向上、生徒指導への対応や問題行動等について、多種多様な取り組みが実践されている。教育委員会も、学校も、保護者も、地域も、児童生徒も、一生懸命頑張っている。しかし、頑張っている割には、期待したとおりの成果がでていない。学力向上対策推進計画の5年次最終年度を向かえて、今一度丁寧に検証する必要があると考ええる。

要望事項等

- ① 幼稚園も含めて補充教員が多いので本務教員を増やして欲しい等の要望が多数あり深刻である。
- ② 天井や廊下のタイルの剥離、教室が暗い等改善して欲しいとの要望等も多数あった。

教師の授業の在り方について（資料編）

OECD国際教員指導環境調査（TALIS 2013）から

- ① 「教員は、生徒の主体的な学びを重要と考えている一方、主体的な学びを引き出すことに対しての自信が低く、ICTの活用を含め多様な指導実践の実施割合が低い」という、実態は早急に改善されなければならない。

- ② より詳しく見てみると、参加国平均が70～80%の割合で高い回答を示していることに対して、日本の教員が格段に低かったものをその数値と共に示せば、
- ・「生徒の批判的思考を促す」(15.6%)
 - ・「生徒に勉強ができると自信を持たせる」(17.6%)
 - ・「勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをする」
(21.9%)
 - ・「生徒が学習の価値を見いだせるよう手助けする」(26.0%)
- である。
- ③ これらの結果を眺めていると、我が国の教育の優位性として挙げた学習指導案を作成する能力の高さや授業研究会、もっと言えば授業としての中味は、大丈夫なのかという気持ちにさせられる。なぜなら、
- ・生徒の批判的思考を促す」
 - ・「生徒に勉強ができると自信を持たせる」
 - ・「勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをする」
 - ・「生徒が学習の価値を見いだせるよう手助けする」
- ことなどは元々、学習指導案を作成時に配慮すべきであり、授業研究会の席上においても当然、議論の俎上に挙げられるべき事柄だからである。

(7) 学校行事への参加（儀式：入園・入学、卒園・卒業式、体育的行事等）

- ① 儀式的行事：入園・入学、卒園・卒業式、周年行事
- ア 幼児・児童・生徒にとって儀式的行事は、大きな節目であり夢と希望を育む大切な行事である。儀式にふさわしく緊張感の中にも、参加者全員が祝福と喜びに満ちあふれた式運営がなされていた。
- イ 参加した学校では、卒業式要覧に児童一人ひとりの「将来の夢」を記載したり、「将来の夢実現に向けて」宣誓する等、自分の生き方・目標、自己実現を意識させる卒業式があった。
- ウ 老人会、自治会長、学校評議委員、民生委員、学校ボランティア等の方々が、大勢参加して励まし祝福する姿を見て、「地域の子は地域で育てる」心が感じられて嬉しかった。特に小学校での入学式で長寿会の方々から、「交通安全のお守り」の贈呈は感謝と感激でした。

② 体育的行事：運動会

- ア 学校行事の見直しと簡素化がいわれるなか、洗練された集団の規律や意欲的に演技に立ち向かう幼児・児童・生徒の姿勢が感じられ、一人ひとりが主役の運動会が実践されていた。
- イ 一生懸命に応援する保護者や祖父母等に応えようと必死に頑張っている姿がよかった。目標に向かって練習する活動や友達と力を合わせて演技・応援する体験等を通して、たくましく生きる力が育まれることを期待した。
- ウ 老人会、自治会長、学校評議委員、民生委員、学校ボランティア等の方々が大勢参加して励まし見守る姿を見て、「地域の子は地域で育てる」心を実感でき嬉しかった。

- ## ③ 旅行・集団宿泊的行事（エコアイランド[®]に向けた人材育成及びキャリア教育事業）
- 市独自の特色ある本事業は、2泊3日の自然、農・漁業、冒険等の体験を野外キャンプや民泊等を通して学ぶチャレンジ型体験活動である。多種多様な活動があり、児童にとって初体験の活動が多く、感動、驚き、発見、興味・関心、好奇心、達成感、友情、思いで、協力、勇気、判断、規律、我慢、恐怖、集中、創造、安全、危険等々、様々なことを学ぶ機会である。児童が難易度の高い種目に、互いに励ましながら生き生きと挑戦する姿を見て、この学びがたくましく生きる力を育む基礎づくりになることを実感した。激励のために東村へ行ったが、本事業の取り組みの意味や価値の重要性を確認でき有意義だった。

（８）各種行事、大会への参加

各種行事、大会は適切に企画開催された。

- ① てだこ学園大学院入学式 5/15 意見発表会 1/19
てだこ学園大学院は浦添市の高齢者の生きがいくつくと、老人会など地域活動で核となる人材育成を目指すものである。
- ② てだこ市民大学 7 期生入学式 5/15・卒業式 3/13
浦添市のまちづくりに寄与できる有為な人材（キーパーソン）を育成することを目的とするものである。
- ③ 浦添市スーパー・コミュニケーションズスクール 3 期生入学式 5/27
本市独自の特色ある事業の一つである。
- ④ エコアイランドに向けた人材育成及びキャリア教育事業視察 7/14
本市独自の特色ある事業の一つで、小学校 5 年生の 2 泊 3 日の東村自

然体験、野外体験・農業・漁業体験学習である。

教育委員も東村に出向いて、子どもたちを激励した。

- ⑤ 第35回浦添市内小学校水泳大会浦添市市制施行45周年記念事業が7/5に浦城小学校にて開催された。
- ⑥ 浦添市成人式1/10
小ざっぱりした式典であった。成人としての自覚と使命感を持って浦添市の将来を担う立派な人として、自信と誇りを持ってはばたいてもらいたい。
- ⑦ 平成27年度浦添市教育委員会表彰式 浦添市教育の日関連事業2/13
社会教育、体育・スポーツ、文化及び学術及び学校教育功労や善行、業績に対して表彰がなされた。
- ⑧ 浦添市・中国泉州市小中学生交流会7/27-31 浦添市から中国泉州市を訪問本市の特色ある教育活動の一つである。両市の児童生徒が隔年毎に訪問しあい、お互いの歴史・文化などに触れつつ交流と相互理解を深め、国際性豊かな人材育成に貢献している。
- ⑨ 第9回英語教育発表会7/23
この大会は、小中学校の英語教育の成果を発表する場である。表現力の向上や協力体制の構築が期待される。
- ⑩ 市教育委員会による服務指導に係る学校訪問7/7-31
管下の教職員全員に対して、服務の訓話等の実施することにより不祥事の未然防止を図る
- ⑪ 第17回教育文化講演会 講師 杉田洋 氏7/31
浦添市の教職員の指導力及び資質の向上を図る
- ⑫ 浦添市教育研究所入所・成果報告会・修了式10/14・3/25
長期教育研究員の先生方がそれぞれの研究主題をもって研究された成果を広く教育界に還元し、子どもたちの指導に生かして頂きたい。
- ⑬ 教員のためのLGBT基礎講座 浦添市教育研究所8/14